

第3回地域課題解決の仕組みづくり会議

日 時：平成28年8月23日（火）午前13時～15時

場 所：ウィザスあしやセミナー室

出席者：朝倉己作（（特活）芦屋市手をつなぐ育成会）宇佐見裕子（精道小学校 smile ねっと）金木友子（精中応援隊）加茂田圭（芦屋市公光郵便局）小泉星児（芦屋市商工会青年部）三芳学（（社福）芦屋市社会福祉協議会）辻本久夫（こくさいひろば芦屋）長城紀道（芦屋法律事務所）奈良雅美（（特活）あしやNPOセンター）

芦屋市企画部市民参画課山田課長 谷野係長 幾波課員

芦屋市立あしや市民活動センターリードあしや 橋野

1 提案についての意見交換

【精中応援隊 金木案】

- ・目的（食事をする、様々なことを教えてもらう）がある居場所にしたいという思いからの企画である。
- ・特に長い休暇の期間に、様子をみながら定期（年数回）開催する。
- ・開催場所として、育成会は木口が無料で借りることができる。隣接する福祉センターも利用可能かもしれない。
- ・居場所はある程度の期間が必要である、行くと誰かが居て自由に活用できる、といったものである。今回はそこまでいかないかもしれない。協力団体によっては内容が変化する。
- ・リードあしや2案とリンクすることもできる。
- ・予算は今はない。芦屋市市民提案型に予算をつけていただくのがよいが、なくても、企業や団体の協賛で実現できる可能性もある。まずは、企画を作成し、積算根拠を打ち出す。
- ・対象は全子ども。困窮している子どもについては、就学援助を受けている子ども数を見るとわかる。（学校教育課）
- ・宝塚子ども議会では高齢者と交流場所が欲しいと提案していた。この場も同様に広がりを持たせるものであれば理想的だ。

【リードあしや案 その1】

- ・子ども議会は子ども権利条約が出た時、各市で開催したが、芦屋では継続できていない。宝塚市は継続し子ども条例ができた。
- ・学生たちが会議の在り方を学ぶところから始まり、「住み続けたい町」など彼らの考えるところをまとめ、市民団体へ伝え、実現できる団体と繋げていく。これを学生から学生へ繋げて継続していくことをイメージしている。
- ・子ども会は中学生がリーダーではあったが、近年は少なくなっている。

- ・委員は学校の自治会や、学校に任さず、個人の個性を重んじた人材発掘をするのもひとつ。
- ・キーマンは若者、SNSなどのツールを使い、学生により近い人がよい。
- ・芦屋成人式は、成人する個人が手を挙げて企画運営している。JCがサポートしている。
- ・浜田進士 氏(子どもの権利条約総合研究所関西事務所長)に講演会を依頼し、再考する。

【リードあしや案 その2】

- ・市内公共施設3つの特徴に合わせ、「わくわくスペシャル」をあてはめたもの。
- ・芦屋市内の全高校生への働きかけをし、企画から協働してもらう。
- ・交通手段としてはみなと観光バスに協力を働き掛ける。
- ・1日に3センター廻るのは難しい。
- ・イベント後に、利用施設が子どもの居場所として存在できるかが課題である。
- ・拠点として様々なことができる場所になればよい。
- ・キッズスクエアは、夏休みは1日利用できるが、お昼が食べられるのは潮見小学校のみ、他は家に帰る。
- ・子ども用夏休み公民館講座も人気である。「わくわくスペシャル」「キッズスクエア」「学童保育」の利用者数、実績を市民参画課が調査する。

【ウルトラセブン50周年、芦屋市市政77周年、777プロジェクト】

- ・芦屋市役所がウルトラ警備隊の基地としてテレビ登場した。
- ・芦屋市商工会青年部は、3年前に市長と懇談会を持ち標題のイベントについて話をした。2年前は円谷プロに連絡をとり協力を取り付けたことがある。
- ・ウルトラマンステッカーを作ったり、テレビに登場したシーンを再現し文化の再発見試みたり、子ども見守り隊なども考えてみる。
- ・芦屋市役所の壁にプロジェクションマッピングをする。
- ・芦屋は古代地名が多いので、町の歴史とも繋げる。
- ・短期的には銅像ができる。砂で作る銅像。住民票にウルトラセブンの絵。
- ・ウルトラマンが町に出没する。
- ・高浜の空き地を利用できる。
- ・開催日は7月7日または8月7日、サマーカーニバルで広報する。
- ・キーワード「町がすきになる」
- ・事業費としては、市との協働事業となると、各企業、団体からの協賛も取りやすい。
- ・スケジュールは厳しいが、やる価値があるので、企画書を立てる。
- ・芦屋観光に芦屋市も力を入れてきている。
- ・芦屋市内高校7校 各学校に呼びかける。

2 決議事項と今後の取り組み

- ・ 777プロジェクト（短期イベント）を立ち上げる。ワークメンバーは、小泉、金木、橋野、第1回目を8月30日、31日いずれかで話し合いをする。
- ・ 案をメールリングリストに上げていく。
- ・ 次回の笑顔子どもネット会議は、9月16日（金）午後16時～18時とする。
- ・ 777プロジェクトから継続して居場所というものを考え、これまでの案を絡めていく。金木案を年度内に開催するのも可能ではないか探る。

会議開始までの談話 リードあしや「子どもわくわくスペシャル」

【開催の目的等】

- ・ あしや市民活動フェスタからメッセージ性を高めるため子ども対象のものを分離させた。
- ・ 他校の子どもとも仲良くなるために、複数日の開催とした。
- ・ 子どもの自立を考え、保護者の同伴を規制した。
- ・ 資金の足りないところは、企業や団体から協賛、協力を得た。
- ・ 地域の中には、経験豊富な大人たちが身近にいることを知ってもらい交流する。
- ・ 広報は「広報あしや」掲載1週間で予約が満杯になった。
- ・ 宮川小学校、浜風小学校が多く、山手小学校が少なかった。
- ・ あしや市民活動センター

【意見】

- ・ 保護者の付き添いがないのは大きい。
- ・ おにぎり（お昼）があるのはよい。こくさいひろばの勉強会ではお昼に帰る子どももいた。